

ご縁の存在

今からおよそ二五〇〇年前、仏教をひらいたお釈迦さまは「すべてのことは縁によって起こる」（縁起の法）という覺りをひらかれました。「すべてのものはご縁によって存在している」ということです。

私たちは自分に都合の良いことは「ご縁」といい、都合の悪いことは「縁起でもない」と嫌います。

例えば、お茶を湯呑に入れた際、茶葉の茎が立っていたら「これは縁起がいいことがあるぞ」と昔から言われてきましたが、今まで私は自分だけに都合の良いことが起こったことなどありませんでした。逆に、俗説によると、箸が折れると「縁起が悪い」と言われるようですが、何度も箸を折ったことがありますが、特別に何か都合の悪いことが起こったことはありません。

つまり、実は縁には良いも悪いもなく、すべては自分の都合で決めているのが私たちではないでしょうか。

本来、仏教では、自分にとって都合の良いことも悪いことも、すべてが今の自分を形成しているご縁なのだと教えられておられます。

■救援金のお願い

元日に発生した能登半島地震は、寺社仏閣にも大きな被害をもたらしました。石川県をはじめ、新潟県、富山県、福井県など、北陸地方を中心に本堂や拝殿が被災しました。

2月19日の読売新聞によると、『地震では仏閣も被害を受けた。石川県内の仏教系宗教法人のおよそ6割を占める真宗大谷派では全806軒のうち、少なくとも457軒の寺が被災した』という記事が出ておりました。

現在、真宗大谷派では「令和6年能登半島地震」に対する『救援金』を勧募しております。当寺も救援金を送りましたが、多くの方々からご支援をいただきました。この度の春季彼岸で頂戴した「線香代と浄財（賽銭）」の一部を救援金に当てさせていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

広く一般の方からも救援金をお願いいたします。皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

【救援金口座】郵便振替口座番号 00920・3・203053

【加入者名】 真宗大谷派

※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記入ください。